

冬季の曽根沼におけるオオクチバスの駆除方法の検討

田口貴史・石崎大介・根本守仁

1. 目 的

オオクチバス（以下、バス）が少ない曽根沼で、カゴ網等構造物と既存漁法（刺網、延縄）とを組み合わせることで、冬季に効率的にバスを捕獲できる方法を検証する。

2. 方 法

2019年12月4日に図1に示す地点①に1m四方の遮光シート4～5枚を詰めたカゴ網（直径90cm、高さ70cmと直径80cm、高さ30cmを各2個）を、地点②に波板（幅60cm、高さ180cm）とヨシズ（幅、高さとも180cm）を組み合わせた構造物を設置した（その後、2020年1月7日に地点⑦に後者の構造物を追加した）。表1に示す日程で、刺網（3枚網：内目合い60mm、外目合い300mm、丈1.5m、長さ30m、1枚網：目合い120mm、丈、長さは前者と同じ）と延縄（1鉢の針数30本、全長約250m、餌：体長80mm程度の生きたゲンゴロウブナ）を図1に示す各所に設置した。漁具毎に捕獲魚を集計し、そのデータを比較した。

3. 結 果

刺網では、バスは全3回の調査で合計15尾捕獲されたが、そのうちの13尾が地点②、③、⑧の南岸の入り組んだ地形で捕獲された（内訳は地点②で9尾、地点③で3尾、地点⑧で1尾）。また、混獲も少なかった（合計でフナ3尾）。一方、カゴ網を沈めた地点①ではバス2尾が捕獲されたが、先の地点に比べてコイ科魚類の混獲が多かった（計18尾）。他の地点（④～⑥、⑦、⑨）ではバスは捕獲されなかった。特に地点⑤⑥ではコイ科魚類が多数捕獲された（計21尾）。

これらの結果から、曽根沼では冬季に南岸の入り組んだ地形の沿岸部を刺網で狙うこと

で混獲を抑えつつ、バスを効率的に捕獲できると考えられる。他方、構造物を設置した効果については、地点②でバスが多く捕獲された一方で、地点⑦ではバスの捕獲が無かったことから、はっきりとしない。今後のさらなる検証が必要である。

延縄では計3箇所、90針を設置したが、バスの捕獲は1尾であった。しかし、捕獲魚は体長432mmと大型であり、混獲がなかったことから、大型バスのみを選択的に捕獲する手法として延縄は有効であるかもしれない。

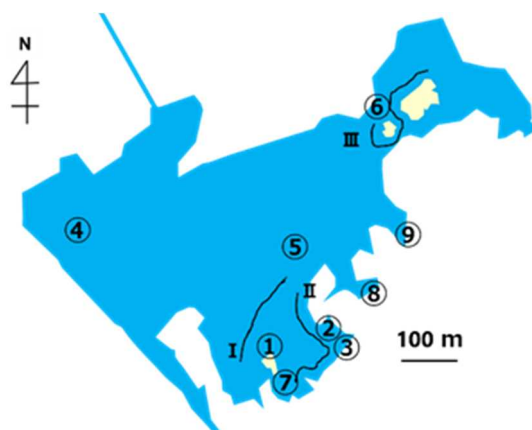


図1 誘引資材の設置場所および刺網、延縄の設置場所。

図中の丸数字のうち①にはカゴ網、②と⑦には波板+ヨシズの構造物を設置した。①～⑧で刺網（各1把）を、I～IIIの線図上に延縄（各30針）を設置した。

表1 調査日ごとの各漁具設置状況

	設置地点	使用漁具
2019年12月25-26日	①、②	三枚網
	I～III	延縄
2020年1月6-7日	①～⑥	三枚網
2020年1月27-28日	①～⑤、⑦～⑨	三枚網
	②、⑧	一枚網*

*一枚網は三枚網を設置した外側に設置した。

*本報告は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚抑制管理技術開発事業」の成果の一部である。